



# 健康・医療データの 標準化と利用促進に関する私見

medical informatics

黒田知宏

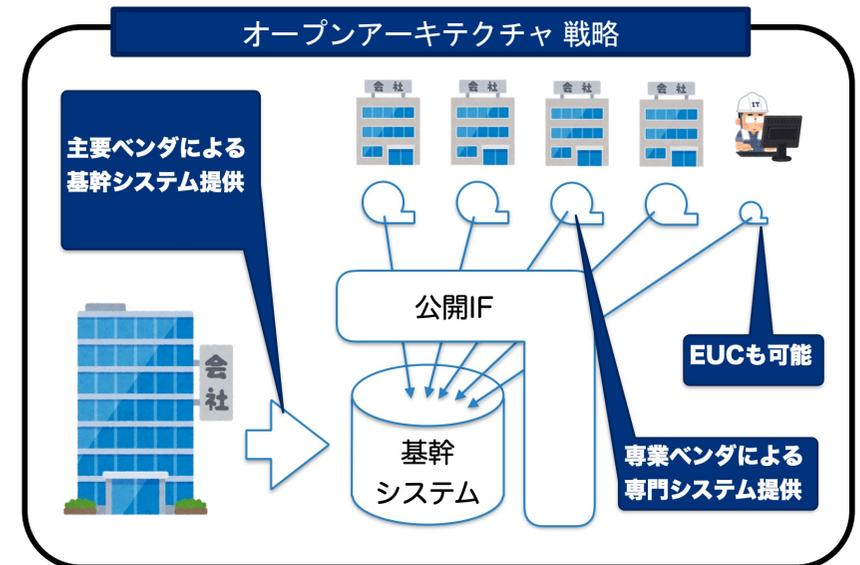
京都大学医学部附属病院 医療情報企画部





# 標準化を考える幾つかの視点

- データ工学的視点（科学的視点）
  - **データ = ラベル + 値 + 単位**（+計測状況(4w1h)）
    - ラベルの標準化：同じ現象に 同じ名前を付ける：マスタ化
    - **値 の標準化**：同じ物質から同じ値 を得る：精度管理
- ソフトウェア工学的視点（経済的視点）
  - 共通部品の再利用 と カスタマイズ性の確保
    - 「強固なコア」と「API」で「アジャイル開発」
    - **「今ある」ものを「再利用」する**  
**(同じものを作らない) 姿勢** が重要
- システム工学的視点（社会的視点）
  - インターオペラビリティの確保
  - RWD の二次活用
    - 「標準化」されたデータが「出力できる」ことが重要



情報公開されたコアシステムのロックインはむしろ低コスト



「今ある」「標準的な」「データ出力方式」の「最大活用」



# レセプト：標準的な医療データ出力規格

- 対象
  - 全保険診療の医療行為・処方・高額な医療材
- 標準化
  - ラベル：**レセプト電算コード**で標準化
    - 病名（ICD10）・薬剤・検査を含む
  - 値：投薬量は標準化済
- 批判
  - アウトカムのデータが無い



「標準的」なアウトカムを追加提出させれば良いのでは？

- 検査結果
  - ラベルの標準化：医学的に必要な粒度で定義（**JLAC**検査名称程度）
  - 値の標準化：**外部精度管理**（値の標準化）を制度的に義務づけて
- 死亡情報：死因をコード化した上で
- 「疾病依存」「治療法依存」なアウトカムはそれぞれの学会で
  - 基礎情報であるNDBと「ID連結」出来て、「公的提供」できればよい
  - がん登録・NCD……

